

直腸癌に対するカーブドカッターを用いた腹腔鏡下低位前方切除術

北菌正樹, 保 清和, 野間秀歳, 前村公成, 新地洋之, 夏越祥次, 石沢 隆, 愛甲 孝

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍制御学消化器外科学 (旧鹿児島大学医学部第一外科) (主任: 愛甲孝教授)

(原稿受付日 平成18年4月12日)

Technique and results of laparoscopic low anterior resection for rectal cancer using curved cutter stapler®

Masaki KITAZONO, Kiyokazu TAMOTSU, Hidetoshi NOMA, Kousei MAEMURA,
Hiroyuki SHINCHI, Syouji NATSUGOE, Takashi ISHIZAWA, Takashi AIKOU

Department of Surgical Oncology and Digestive Surgery, Kagoshima University Graduate School

Abstract

Surgical procedures and indications for laparoscopic surgery in the treatment of rectal cancer have been advanced, but there is no standard technique yet. For the treatment of rectal cancer, we present a laparoscopic low anterior resection technique using a curved cutter stapler. The merit of using a curved cutter stapler is facility to cut the rectum by one manipulation. We used the linear endo-stapler, like a endo-GIA or endo-cutter, and frequently we must do repeat cutting for thick tissue. A curved cutter can hold tissue using the retaining pin and can cut the rectum steadily.

Key words: curved cutter stapler, laparoscopic surgery, low anterior resection

緒 言

直腸癌に対する腹腔鏡下手術成績について、各施設において検討されている¹⁻³⁾。従来の開腹手術と比較しても差は無く良好な成績であり、術後の合併症もむしろ発生率が低いと言われている。問題点は各施設ごとに適応や手術方法に差があり、いまだ標準術式が確立されていないことである。当教室でも直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術に積極的に取り組んでおり、手術法・器具の使用法に工夫を加えている。今回は特に直腸の切離におけるカーブドカッターの使用法について報告する。

対 象

当科においては1998年より腹腔鏡下大腸切除術をとり入れており、60例に対し施行している。直腸癌に対する

腹腔鏡下低位前方切除において、2004年までは直腸切除をエンドGIA、エンドカッターを用いておこなっていたが、2005年からはカーブドカッターを用いて8症例に対して使用し直腸切除している。

手術手技

1. 手術室のセットアップ

術中の患者体位と手術室の配置は図1のごとくである。チーム全員が同じモニターをみることにより、できる限りミラー画像とならないように配置している。

2. トロッカーの位置と数

臍直上にopen techniqueにてカメラポートを挿入し気腹している。図2にトロッカーの位置をしめす。

